

三豊市図書館基本計画

～本と人、人と人をつなぎ 未来を拓く空間～



平成30年3月
三豊市教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 計画の概要	
1. 計画策定の目的	2
2. 計画の位置付け	2
3. 計画の期間	3
第2章 図書館の現状と課題	
1. ハードウェア（施設・設備）の現状と課題	4
2. ソフトウェア（サービス）の現状と課題	5
3. ヒューマンウェア（人員体制）の現状と課題	14
第3章 図書館サービスの充実に向けて	
1. 市立図書館の役割	18
2. 特色ある図書館の考え方	18
3. 効率的な図書館運営	20
4. 図書館が支援するサービス	22
5. 再編計画の検討	24
第4章 計画の推進体制	
1. 重点目標の設定	25
2. 取り組みの評価	27
(資 料)	

はじめに

三豊市では、将来像「“豊かさ”をみんなで育む市民力都市・三豊」の実現に向け、「三豊市新総合計画」に基づくまちづくりに取り組んでいます。それに伴い、市教育委員会では、平成27年度に生涯学習を通じた人材育成と社会貢献につなげる仕組みづくりに向けた新たな指針として「第2期三豊市生涯学習推進計画」を、平成28年度には生涯学習における基本理念を基に「三豊市図書館再編基本構想」を策定しました。

市では図書館法に基づき、市民の教育と文化の発展に寄与することを目的に、市内に図書館を6館、図書室を1室設置しており、各館で図書の貸し出しやレファレンスをはじめとする様々なサービスを提供しています。

しかし、今後の社会情勢の変化や市の厳しい財政状況を考えると、図書館を単に「本を読む場所、借りる場所」としてとらえるのではなく「本と人、人と人をつなぎ、未来を拓く空間」としてとらえ、生涯学習及び地域コミュニティ拠点として、多くの人々が利用しやすい施設にするよう努めなければなりません。

様々な社会情勢の変化の中で、図書館を取り巻く情勢も大きく変わろうとしています。それにあわせて利用者のニーズも多様化し、図書館サービスもより広い、より深い、より高度な対応が求められています。

この計画では、現在の図書館の現状や課題を洗い出し、ハードウェア（施設・設備）、ソフトウェア（サービス）、ヒューマンウェア（人員体制）の3つの観点から、今後の図書館の方向性や具体的な施策について検討します。

第1章 計画の概要

1. 計画策定の目的

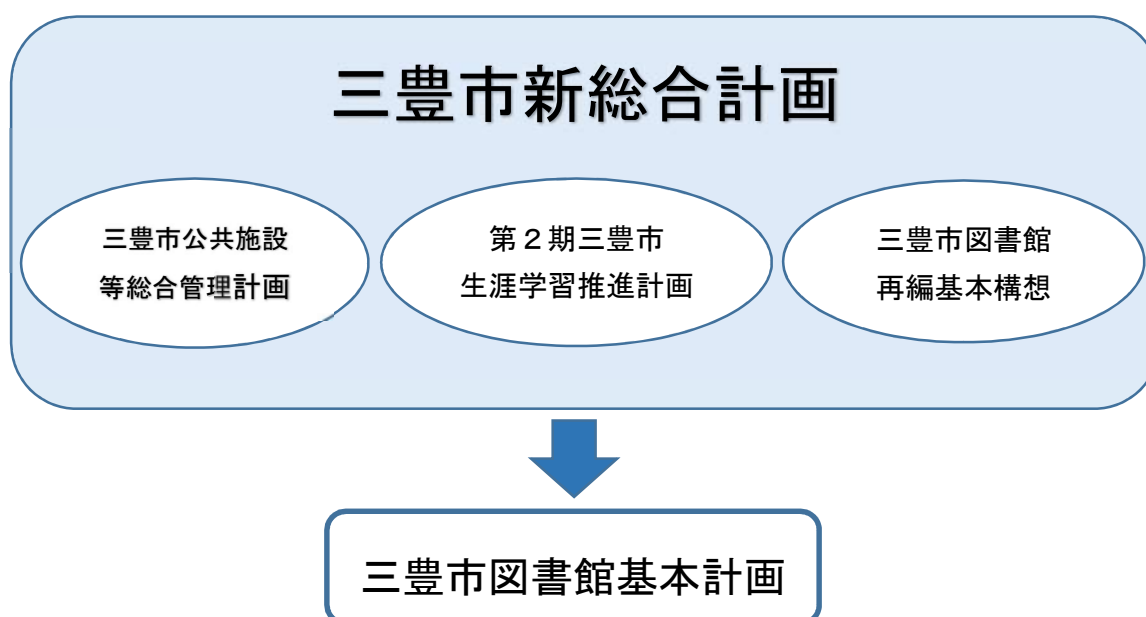
現在の図書館を取り巻く社会情勢や市の財政状況等を踏まえ、図書館が市の将来像「“豊かさ”をみんなで育む市民力都市・三豊」の実現に貢献できる施設となるために取り組むべき施策を検討し、市民一人ひとりの豊かな人生の実現を目指します。

2. 計画の位置付け

この計画は、「三豊市新総合計画」の教育における分野別計画に位置付けられる「第2期三豊市生涯学習推進計画」及び平成28年度に策定した「三豊市図書館再編基本構想（以下、再編基本構想という）」を基に策定します。

そして、図書館の建物や設備の整備については再編基本構想及び、同じく平成28年度に策定した「三豊市公共施設等総合管理計画（以下、総合管理計画という）」に基づき、本計画に盛り込みます。

また、「三豊市子ども読書活動推進計画」など関連する計画等との整合性を図りながら、市の目指す図書館の実現に向けて事業を進めていきます。



3. 計画の期間

この計画の期間は、平成30年度から平成39年度までの10年間とします。

なお、計画の策定後、社会情勢や図書館を取り巻く環境の変化等により内容の見直しが必要となった場合には、適宜検討を行っていくものとします。

第2章 図書館の現状と課題

1. ハードウェア（施設・設備）の現状と課題

<現状>

6館1室（以下、7館という）のうち、高瀬町図書館（昭和45年建築）と三野町図書館（昭和47年建築）については耐震化ができていません。利用者の安全面を考えると、改修や移転など早急に対応する必要があります。また、今後は誰もが気軽に集い、憩うことができる快適な空間づくりが必要になります。

<課題>

耐震化のできていない高瀬町図書館は平成29年度末にみとよ未来創造館の1階へ移転します。また、三野町図書館も平成31年度を目途に移転予定です。移転先は、現在検討中です。他の図書館も、それぞれの特色に応じてインターネット環境の整備やAV機器の充実を図るなど、整備をしていく必要があります。

図書館施設一覧

平成29年4月1日現在

	建築年	単独・複合の別	建物総面積	建物構造	耐震性	障害者トイレ	洋式トイレ	スロープ
高瀬町図書館	S45	単独	550	鉄骨	無	無	無	無
山本町図書館	H13	複合	1249(うち専用部分393)	鉄骨	有	有	有	有
三野町図書館	S47	複合	1232(うち専用部分336)	鉄筋	無	無	無	有
豊中町図書館	H6	複合	1286(うち専用部分765)	鉄筋	有	有	有	有
詫間町図書館	S58	単独	823	鉄筋	有	有	有	有
仁尾町図書館	H15	複合	1529(うち専用部分504)	鉄筋	有	有	有	有
財田町公民館 図書室	S57	複合	1992(うち専用部分150)	鉄筋	有	有	有	有

2. ソフトウェア（サービス）の現状と課題

①図書館利用状況の現状と課題

<現状>

図書館の貸出者数は年々減少傾向にあります。しかし、市内の図書回送便の利用数や、貸出冊数は増加しています（表1～3参照）。このことから、一定の人が利用しており、新たな利用者は少ないと考えられます。

<課題>

表4からも分かるように、いずれの図書館も中学生から20代の利用率が低くなっています。また、女性に比べ男性の利用率が低いことも分かります。今後は、若い世代の新規利用者や男性の利用者を増やすことが重要だと考えます。また、図書カードの登録者数も県内の他の図書館に比べると低い状況にあります。

表1

※財田町公民館図書室はH22年度からのデータのみ

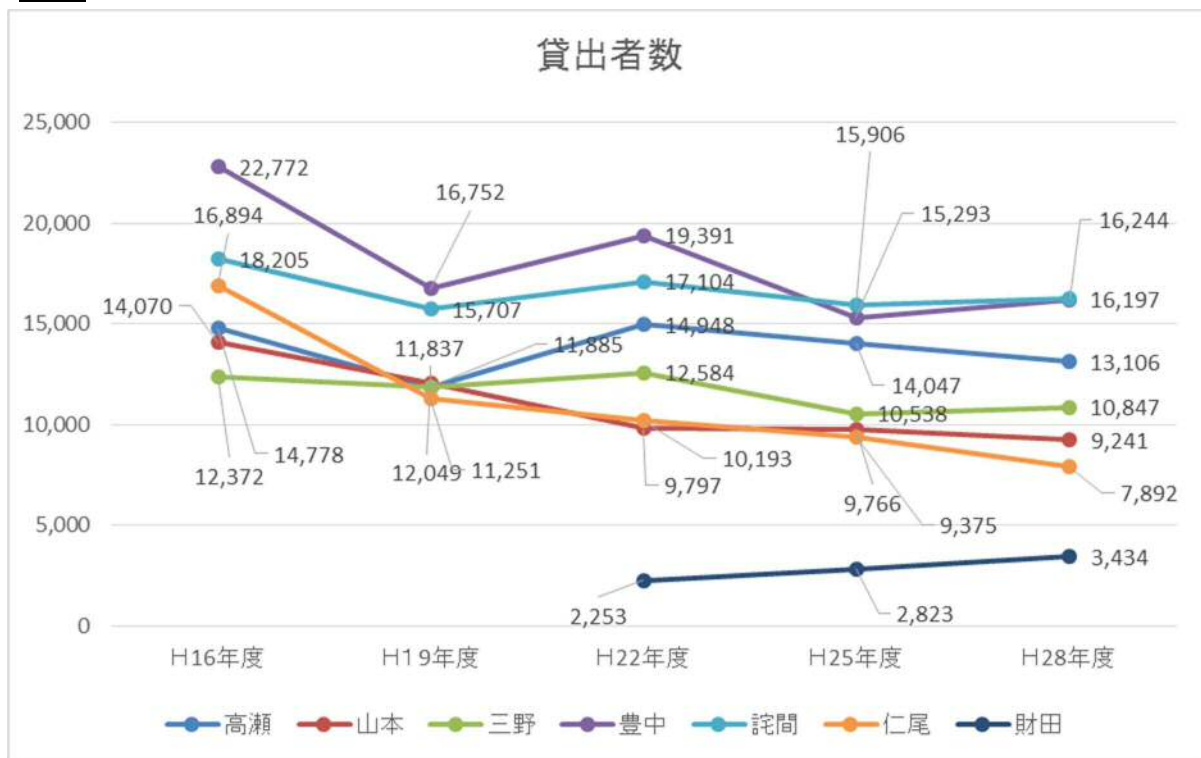


表 2

※財田町公民館図書室はH22年度からのデータのみ

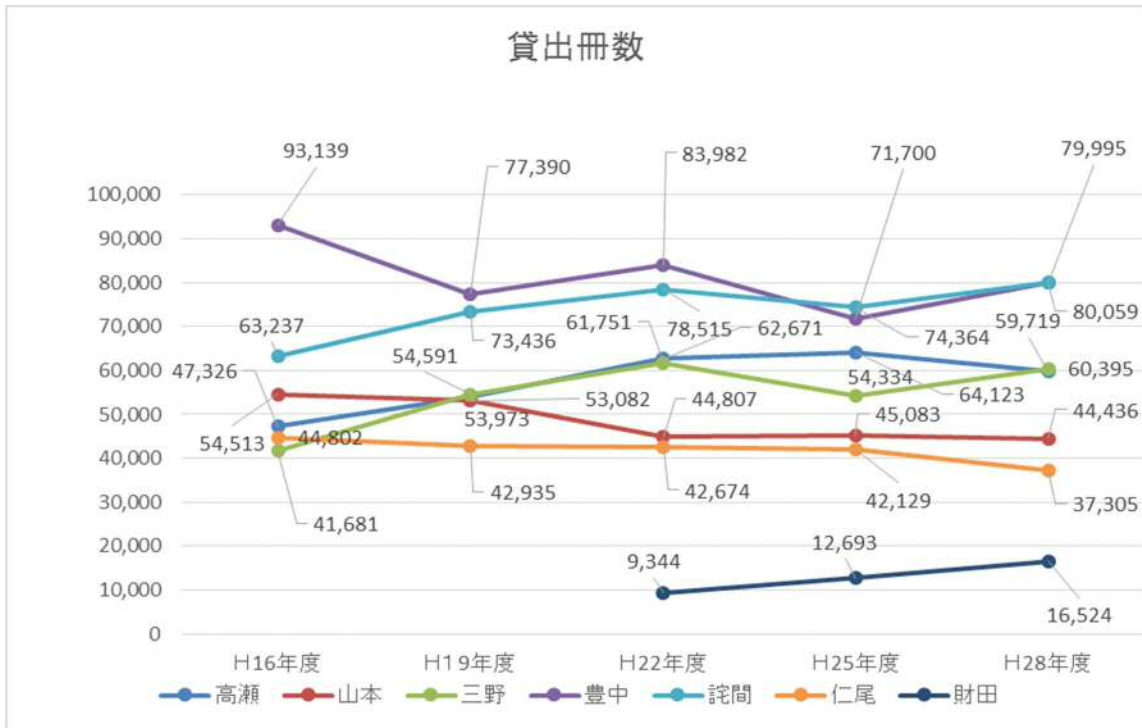


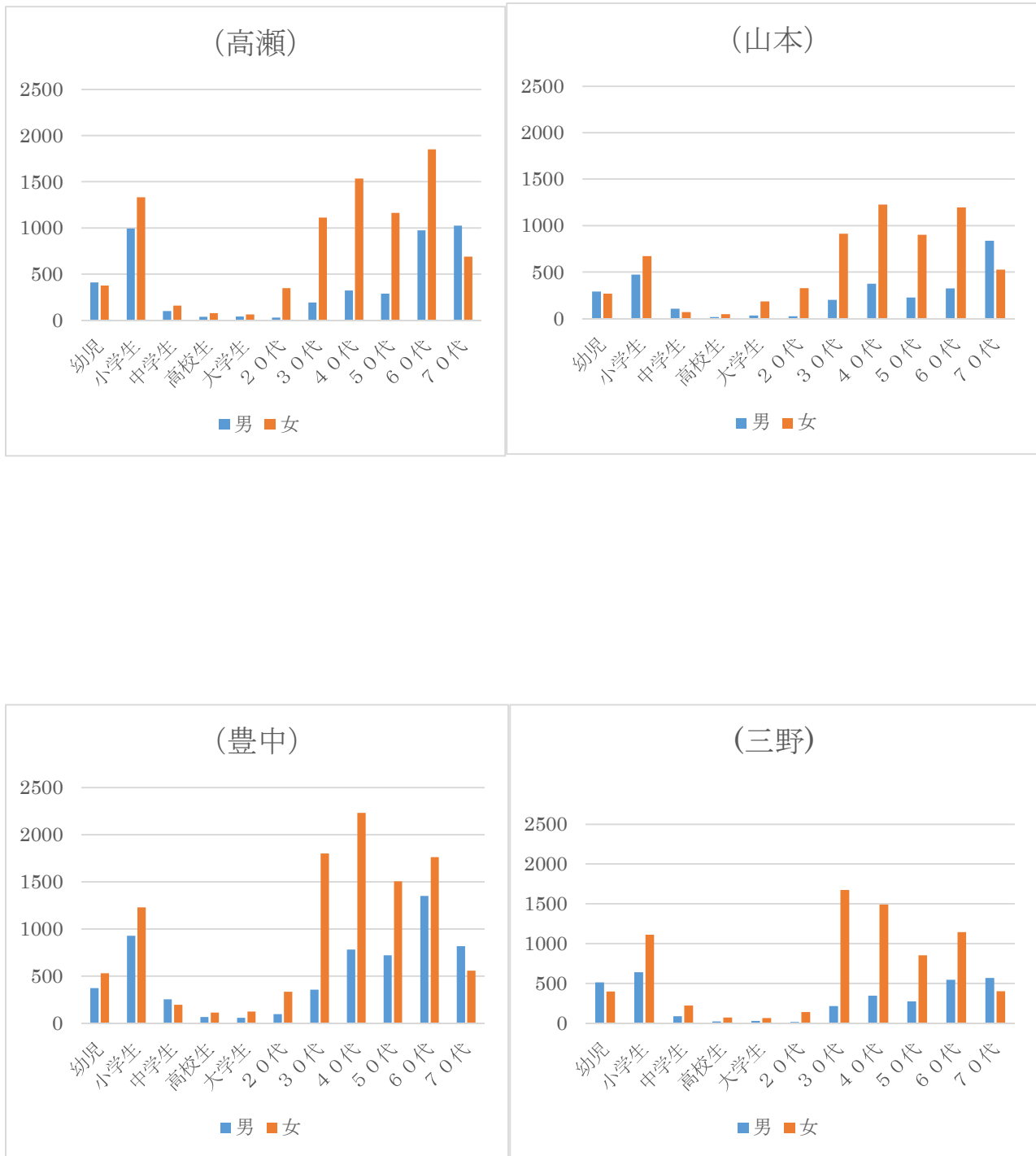
表 3



表 1～表 3は図書館統計年報より

表 4

各図書館の貸出者数



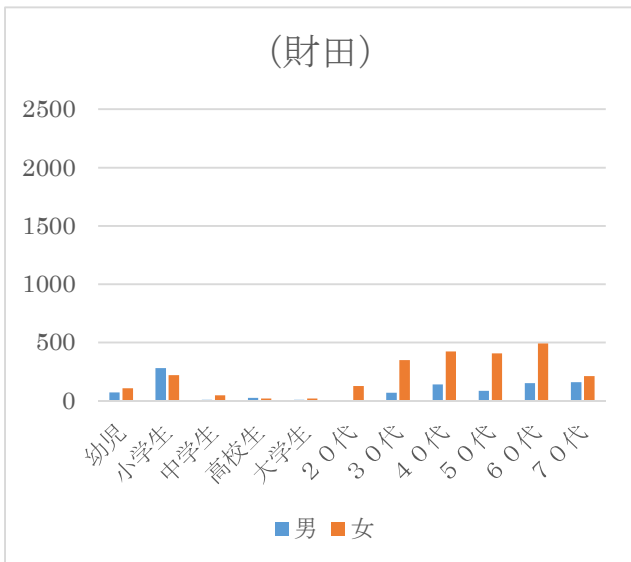
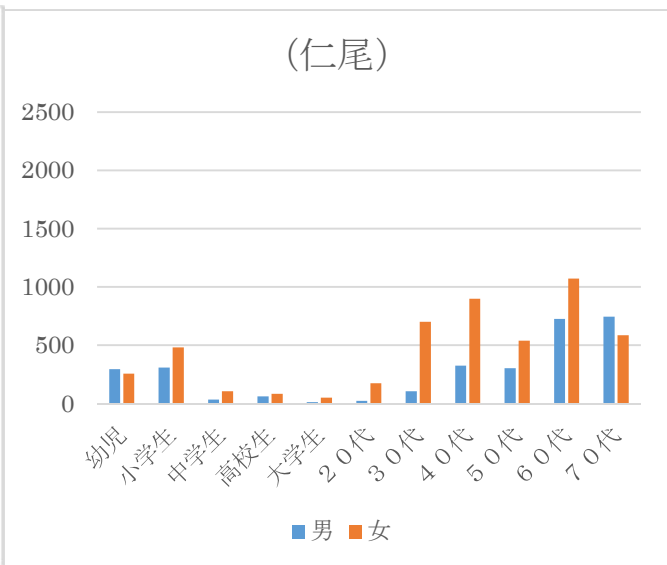
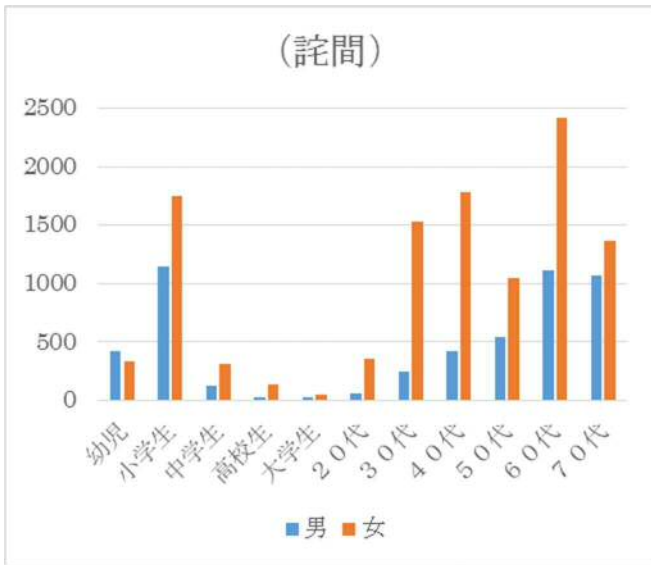


表4はH28年度図書館統計年報データより

市内の図書館行事（平成28年度）

図書館名	行事内容
高瀬町図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話のおはなし会 ・世界の昔ばなし展（読書週間イベント） ・図書のリサイクル市
山本町図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌の無料提供 ・子どもたちに読んでほしい本の展示 ・工作教室 ・紙ひこうき作り・マスキングテープで遊ぼう（読書週間イベント）
三野町図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・この本もったいない市 ・マイバックで図書館へ行こう ・名探偵コナンに挑戦（読書週間イベント） ・夜の図書館&ハロウィン・ランタン作り（読書週間イベント）
豊中町図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・しおり作り ・本から広がれ 世界の国へ ・豊中図書館探検隊（読書週間イベント） ・雑誌無料提供
詫間町図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書交流会 ・My しおり作り ・わたDEつくろう～おさるさん～ ・子ども読み聞かせ発表会 ・夏休みアニメ映画会 ・読み聞かせボランティアのための講習会 ・フラワーアレンジメント ・雑誌無料提供会 ・人工イクラをつくろう（読書週間イベント） ・いりこモンスターをさがせ（読書週間イベント） ・読書感想画展 ・おはなしの会とクリスマスコンサート ・出前おはなし会

図書館名	行事内容
仁尾町図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・おりがみでキャラクターづくりを楽しもう (読書週間イベント) ・春休み上映会 ・夏休み上映会 ・冬休み上映会 ・古本リサイクル市 ・図書館・公民館まつり
財田町公民館図書室	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室展示とおりがみ遊び ・雑誌無料提供 ・メッセージカードをつくろう (読書週間イベント)
7館合同	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会研修講座 ・図書館フェスタ (読書週間イベントにあわせて各図書館でイベントを開催)

おはなし会研修講座の様子



子どもたちはパネルシアターに興味深々です

講師の先生のわかりやすいお話に、図書館司書やボランティア団体のみなさんは熱心に聞き入っていました



②開館日・開館時間の現状と課題

<現状>

開館日数：年間280日前後

開館時間：9：30～18：00

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）

毎月末日（その日が休館日、土曜日又は日曜日に当たる場合はその前日）

12月28日から翌年1月3日までの日

資料特別整理期間（毎年、休館日を除く10日以内）

<課題>

現在、市内すべての図書館の開館日、開館時間が同じになっています。

今後は各館の現状を踏まえて、開館日、開館時間を見直し利用拡大を図る必要があります。

③貸し出し・返却サービスの現状と課題

<現状>

現在、市内図書館では、図書館システムの整備や巡回図書により、どこでも借りたり返却したりすることができます。また、閉館時には各図書館に返却ポストを設置し、時間外でも返却できるようにしています。自動貸出機は整備しておらず、図書館職員が貸し出しや返却を行っています。

<課題>

誰もが利用しやすい図書館にするため、今後は返却ポストを増設したり図書館から遠い利用者の利便性などを考え、商業施設での貸し出しや返却ができるようなサービスも必要になります。

また、ICタグや自動貸出機の設置なども検討していく必要があります。

④図書館システムの現状と課題

<現状>

現在の図書館システムは合併時に構築されたシステムで、約10年が経過しています。本の貸し出しや返却、レファレンス等利用者サービスから目録整理、蔵書管理等ができるシステムとなっています。

<課題>

今後は、貸し出しや返却以外にも業務の効率化から運営の検討まで、利用者サービスをより一層向上させるシステムの導入が求められます。また、児童・生徒への読書推進、高齢者のニーズに対応する支援など、新たな役割も求められています。

さらに、学校図書館との連携を視野に入れたシステムを構築する必要性も、高まってきています。

⑤学校・その他施設・社会教育関係団体等との連携の現状と課題

<現状>

学校図書館は、児童・生徒にとって最も身近な図書資料を保有・所蔵する「読書センター」としての機能とともに、調べ学習など児童・生徒が自主的に情報を収集・整理・活用・検索・評価するための「情報センター」としての機能も持っています。

現在、市立図書館から学校図書館へ本の貸し出しを行い、学校での学習に役立てています。

図書館利用カード団体登録者数

平成29年度4月1日現在

登録団体数	122団体
登録貸出冊数	13,633冊

※登録団体：各保育所・幼稚園・小学校・中学校・ボランティア団体
福祉施設・放課後児童クラブ

<課題>

現在、市立図書館と学校図書館のシステムのネットワーク化はされておらず、それぞれが独立した図書館運営を行っています。また、蔵書の貸し出しや司書による選書のアドバイス等についても十分な連携がとれていない状況です。今後は学校図書館との連携を深め、子どもの読書活動を推進していく必要があります。また、学校図書館以外にも、市内の公民館や子育て支援センター等と連携して事業を行ったり、巡回図書についても検討を行う必要があります。

⑥子育て支援の現状と課題

<現状>

市では平成25年度に「第2次三豊市子ども読書活動推進計画」を策定し、家庭や学校等と連携しながら子どもの読書推進に努めてきました。平成30年度には次期計画を策定します。

幼児期から読書に親しむ機会を持つことは重要です。平成25年度に実施した子どもの読書活動に関するアンケートでも、80%を超える乳幼児の保護者が「読み聞かせは大切である」と考えています。しかし、近年、ブックスタート事業の絵本配布率は約70%と低い数字になっています。

※ブックスタート事業とは

市内に生まれたすべての赤ちゃんとその保護者に、絵本を介して触れ合える時間を持てるよう、絵本や子育てアドバイス集などが入った「ブックスタートパック」を贈る事業。

<課題>

家庭における読書活動、家族間のコミュニケーションは子どもの学力に最も強い影響力を及ぼすことが明らかになっています。幼児期から本に親しむためにも、現在実施しているブックスタート事業の絵本等の配布率をあげたり、セカンドブック事業についても検討する必要があります。

※セカンドブック事業とは

ブックスタート事業のフォローアップ事業。取り組み内容は各自治体等によって異なりますが、幼児や小学生に本をプレゼントすることで本に接する機会を多く作り、本を通して家族の絆を強めたり、自発的な読書につなげることを目的としています。

3. ヒューマンウェア（人員体制）の現状と課題

①職員体制の現状と課題

<現状>

市立図書館は現在、直営で運営を行っています。司書は財田町を除く各図書館に配置されています。現在の職員数は図書館の規模に関係なくほぼ同じです。

また、職員の能力向上のためには研修等が必要ですが、現在はその機会が十分持てていないといえます。

図書館職員の現状（平成29年4月1日現在）

		館長	司書	事務
生涯学習課 課長 課長補佐 図書館担当	高瀬町図書館	1名	2名	1名
	山本町図書館	1名	1名	3名
	三野町図書館	1名	1名	2名
	豊中町図書館	1名	1名	3名(1名)
	詫間町図書館	1名	2名	0名
	仁尾町図書館	1名	1名	2名
	財田町公民館 図書室	1名	0名	2名(1名)

※()は正規職員

※山本・豊中・仁尾・財田の図書館長は公民館長と兼務

●平成28年度研修参加状況

- ・ 図書館職員初任者研修 0名
- ・ 図書館全国大会 0名
- ・ 三豊市お話研修会 14名
- ・ 香川県図書館大会 2名
- ・ 中国・四国地区図書館地区別研修 0名

<課題>

図書館サービスの質を維持しながら効率的に運営するためには、現在の人員配置を見直し、中央図書館機能を持った図書館を中心とした職員体制を整備する必要があります。また、今後は業務委託や指定管理者制度の導入についても調査・研究する必要があると考えます。

一方、図書館職員の研修会等への参加状況は十分とはいえません。職員のスキルアップを考えると、今後は自分たちで研修会を企画したり、県内外の様々な研修会等に積極的に参加する必要があると思われれます。

②読み聞かせボランティア団体との連携と課題

<現状>

各図書館では、それぞれ読み聞かせボランティアグループが活動しています。

読み聞かせボランティア団体一覧

平成29年4月1日現在

町名	団体名 (設立時期)	会員数	活動場所	活動内容	図書館での活動日・ 活動内容
高瀬	おはなしの会 たかせ (H11年度)	10名	図書館、幼稚園、 保育所	幼児から高齢者まで対象の おはなし会を開催	毎月第4土曜日
	げんきのき (H13年度)	10名	図書館、幼稚園、 保育所、小学校 中学校	絵描きうた・手遊び・工作と 絵本の読み聞かせ等	毎月第1・3土曜日
山本	えほんのへや (H13年度)	17名	生涯学習センター、 幼稚園・保育所、 小学校等	絵本の読み聞かせ会、紙 芝居会、おはなし会等	毎月第4土曜日

町名	団体名 (設立時期)	会員数	活動場所	活動内容	図書館での活動日・ 活動内容
三野	ももの会 (H7年度)	11名	図書館、公民館、 幼稚園、保育所、 小学校等	絵本の読み聞かせ、おは なし会等	毎月第2土曜日
豊中	おはなし ボランティア 「夢ふうせん」 (H6年度)	12名	図書館、幼稚園、 小学校、支援セン ター等	読み聞かせ、紙芝居、ス トーリーテリング、パネルシ アター、エプロンシアター 等	毎月第2土曜日 夏休み中の水曜日に 3回開催
詫間	白ゆりクラブ (H14年度)	5名	図書館、保育所、 小学校、中学校 等	絵本・大型絵本・紙芝居 等の読み聞かせ、工作	毎月第1土曜日 要望により保育所、 小・中学校等に出向く
	えほんのくに チャオ (H14年度)	5名	図書館、保育所、 小学校、中学校 等	絵本・大型絵本・紙芝居 等の読み聞かせ、工作	毎月第2土曜日 要望により保育所、 小・中学校等に出向く
	おとひめズ (S59年度)	9名	図書館、保育所、 小学校、中学校 等	絵本・大型絵本・紙芝居 等の読み聞かせ、工作	毎月第3土曜日 要望により保育所、 小・中学校等に出向く
	詫間町 図書館 友の会 (H14年度)	5名	図書館、保育所、 小学校、中学校 等	絵本・大型絵本・紙芝居 等の読み聞かせ、工作	毎月第4土曜日 要望により保育所、 小・中学校等に出向く
	おはなし びっくりばこ (H21年度)	6名	図書館、幼稚園、 小学校、中学校、 デイサービス等	絵本・大型絵本・紙芝居 等の読み聞かせ、工作	第5土曜日 要望により幼稚園、 小・中学校、デイサー ビスへ出向く
	えいごの おはなし会 (H25年度)	7名	図書館、小学校、 中学校等	英語で絵本の読み聞かせ 手遊び、歌遊び、ゲーム 等	毎月第2日曜日 要望により小・中学校 へ出向く
仁尾	絵本の とびら (H15年度)	7名	小学校、中学校	絵本の読み聞かせ	月2回程度(小学校) 年4回(中学校)
	あいびいず (H20年度)	12名	図書館、幼稚園、 保育所、支援セン ター	絵本の読み聞かせ、紙芝 居、手遊び等	毎月第2土曜日(おはなし 会)〔10月除く〕 夏休み(1回)(読み聞かせ) 中学校の職場体験中に読 み聞かせの指導 月1回読み聞かせ(支援セ ンター、幼稚園、保育所)

町名	団体名 (設立時期)	会員数	活動場所	活動内容	図書館での活動日・ 活動内容
財田	まかろん (H25年度)	12名	公民館図書室 総合運動公園 (放課後児童クラブ)	絵本の読み聞かせ、おりがみ遊び等	毎月第3水曜日

<課題>

今後は、読み聞かせボランティア団体が継続してより活発な活動ができるよう、研修会やイベントを企画・開催し、育成・支援していくことが重要です。また、読み聞かせボランティア団体以外にも、図書館運営に積極的にかかわってくれる人材（図書館サポーター）を育成する必要があると思われます。

※図書館サポーターとは

全国各地の図書館で、司書や職員のお手伝いをする図書館サポーターが活躍しています。その内容は、館内・敷地内の清掃や館内装飾物の作成、本の配架・修理、地域に関する新聞記事のスクラップ、イベントのお手伝い等、多岐にわたっています。みなさん、自分の空いた時間に自分にできることをしています。



読み聞かせの様子 毎回、たくさん子どもたちが楽しみにしています

第3章 図書館サービスの充実に向けて

1. 市立図書館の役割

平成28年度に実施した市民アンケート調査によると、約90%の人が「地域に図書館は必要である」と考えています。その反面、約40%の人が「今後の市の財政状況を考えると、利用率の低い図書館から閉鎖したほうがいい」と考えています。

市立図書館は、乳幼児から高齢者まで、すべての市民が自由に利用できる場であり、利用者が必要な情報を入手し、あらゆる学習機会を通して自己の人格を磨き続け、豊かな人生を実現する場でもあります。

よって、これからの市立図書館は、単に「本を読む場所、借りる場所」ではなく、人と人が出会い、交流し、地域をより活性化させるコミュニティ拠点としての役割も果たすべきであると考えます。

図書館資料を充実させたり、施設の整備を図ることはもちろんですが、図書館で様々なイベントを実施することで「こんな図書館なら、もっと行きたい」という市民が増え、たくさんの人が利用することで市全体が元気になる、図書館をそんな場所にするため、市では、当面は今ある7館を十分に活用し、生涯学習及び地域コミュニティ活動の推進を図ります。

2. 特色ある図書館の考え方

再編基本構想及び総合管理計画に基づき、市内の図書館の適切な配置について検討した結果、各館の施設等の整備について次のとおり取り組みます。

みとよ未来図書館

高瀬町図書館の建物は昭和45年に建設され、築47年が経過しています。法定耐用年数もすでに経過し老朽化が著しく、耐震面でも問題のあることから、同一敷地内で耐震工事が完了しているみとよ未来創造館の1階に図書館機能を移転させ、新たに「みとよ未来図書館」として平成30年4月1日より共用を開始します。

みとよ未来創造館の近隣には、市役所をはじめとする市の中心的公共施設や学校などが立地しています。その現状を生かし、みとよ未来図書館は

多機能で知的な情報コミュニティ施設とします。学生が学校の帰りに立ち寄って学習したり、あらゆる世代がさまざまな情報を入手したり発信したりする場としてだけでなく、市民が集い、交流できる場としても整備します。そのために、みとよ未来図書館には無料公衆無線LANサービス「かがわWi-Fi」を導入します。

山本町図書館

山本町図書館は、平成13年に建設された「山本町生涯学習センター」内に山本町公民館とともに設置されています。また、近隣には野球場やテニスコートを有する山本ふれあい公園や山本小学校があり、あらゆる年代の人が集まり、交流できる場になっています。

もともと様々な分野の専門書や参考書が多いので、個人では購入の難しい本を充実させ、シニア世代や現役世代の学習意欲を高めます。また、子ども向けの本を充実させたり、公民館活動との連携を図るなどして、南部における子育て世代の交流拠点とします。

三野町図書館

三野町図書館の建物は昭和47年に建設され、築45年が経過しています。法定耐用年数もすでに経過し老朽化が著しく、耐震面でも問題のあることから、早急に他の公共施設等に図書館機能を移転させる必要があります。

移転先を検討する中で、立地場所によりどのような特色を持たせるべきかについても十分に協議します。

豊中町図書館

豊中町図書館は、平成6年に建設された「豊中町芙蓉文化の里館」内に豊中町児童館とともに設置されています。また、近隣には大型商業施設や豊中中学校があり、あらゆる年代の人が集まり、交流できる場になっています。

もともとAVコーナーが整備されているので、CDやDVDなどの視聴覚教材をさらに充実させ、将来的には無料Wi-Fiの導入も検討するなど、様々な電子媒体を所蔵する電子資料提供の場とします。

詫間町図書館

詫間町図書館は昭和58年に建設されました。近隣に香川高等専門学校詫間キャンパスがあるという立地を生かし、利用者がパソコンの最新スキ

ルやプログラミングを学べる講座を開催したり、詫間町民俗資料館・考古館と連携して昔の暮らしを体験するなど体験サービスの拡充を図り、利用の拡大を図ります。

仁尾町図書館

仁尾町図書館は、平成15年に建設された「仁尾町文化会館」内に設置されています。近隣には歴史ある古い町並みや寺社、夕日がきれいな海岸やウォータースポーツが楽しめる施設などがあり、観光資源にも恵まれています。歴史・文化関連の資料を充実させ、住民と一緒に地域の活性化を目的としたイベントを展開するなど、仁尾町文化会館を中心としたにぎわいづくりの一翼を図書館が担い、文化・観光情報発信の拠点とします。

財田町公民館図書室

財田町公民館図書室は、昭和57年に建設された「財田町公民館」内に設置されています。公民館活動との連携をさらに深め、地域の学習の場、憩いの場として、住民が集いやすい地域密着型サービスの提供を図ります。

3. 効率的な図書館運営

①中央図書館機能の整備

図書館の利用率を高め、効率的な運営を行うため、高瀬町公民館との複合施設であるみとよ未来図書館に中央図書館機能を持たせます。ここでは、各館の主体性や独自性を重視しながら、蔵書構成の検討や選書、情報の発信、イベント等の企画、学校をはじめとする各種団体との調整など、市全体を統括した業務を行い、運営体制の強化を図ります。

また、今後は各館の利用状況や社会情勢、市の財政状況の変化に伴い、図書の貸出機能は残しつつも、利用率の低い図書館の閉館を含めた再編や、指定管理者制度等の民間活力の導入についても調査・研究を進めていきます。

②図書館機能の充実

レファレンスサービス

各館に特色を持たせた運営を行うため、その特色に応じた図書資料を充実させるとともに、利用者が必要とする情報を的確に提供できるようレフ

アレンス機能を強化させます。

貸し出し・返却

誰もが利用しやすい図書館にするために、返却ポストの増設や図書館以外の施設での貸し出し・返却について検討します。

また、図書館の運営体制の見直しや蔵書の整理を進める中で、ICタグの導入や自動貸出機の設置などについても検討します。




図書館システム

現行の図書館システムは平成31年度に更新する予定となっています。新システムは安定性、安全性はもちろん、貸出・返却の自動化、電子書籍貸出への対応、学校図書館との連携等、様々なサービスへの拡張性を考慮して選択します。また、デジタル世代の増加に伴い、スマートフォンやタブレット端末に対応した機能の導入も考える必要があります。

開館日・開館時間の拡大

アンケート調査やワークショップで多かったのが「開館時間を拡大してほしい」という意見でした。現在は、7館がすべて同じ条件で開館しています。利用者のニーズに合わせ、今後は館ごとに休館日や開館時間を設定し、利用率の向上を図ります。

【休館日・開館時間の考え方の例】

図書館名	休館日	開館時間
A図書館	火曜日	午前8時30分 午後5時
B図書館	月曜日	
C図書館	水曜日	午前9時30分 午後6時
D図書館	月曜日	
E図書館	木曜日	午前10時 午後8時
F図書館	月曜日	
G図書館	金曜日	※各館の利用状況を踏まえて開館時間を設定します

巡回図書の実施

現在、高瀬町内の小学校2校において月2回、移動図書館車による巡回図書を実施しています。また、詫間町の粟島開発総合センターでは年3回図書の入れ替えを行っています。

今後は、特に年少者や高齢者等の交通弱者の利便性を高めるため、巡回図書の範囲の拡大や回数増加について検討します。

効率的な人員配置

現在、規模や利用者数等に関係なく、7館にほぼ同じ人数を配置して運営を行っています。今後は、中央図書館機能を持つ図書館ができることにより、各館の現状を踏まえて職員数の見直しを行い、さらに効率的な図書館運営を目指します。

③職員の人材育成

図書館サービスの充実を図り、利用率を向上させるためには、サービスを提供する図書館職員のスキルアップが必要不可欠です。新たなシステムや設備等の導入に伴い図書館活動の幅が広がることにより、職員にはこれまで以上に高度な専門性やコミュニケーション能力、柔軟な対応力等が求められます。

司書に対する専門的な講習や実務研修への参加を促したり、職員同士が定期的に集まり図書館運営上の問題点を洗い出し、対処法について検討するなど、自己研さんの機会を設け、積極的に人材育成を図ります。

④市民ニーズの把握と利用の啓発

図書館の利用率を高めるためには、利用していない人も含めて様々な人の意見を聞き、ニーズの把握に努めなければなりません。市民が希望するサービスをできるだけ取り入れられるよう、図書館ワークショップやアンケート調査を行い、サービスの改善に努めます。

また、ホームページや広報紙を活用して、図書館活動のPRを推進します。必要な情報を分かりやすく伝えるだけでなく、図書館の魅力が存分に伝わるような、魅力ある情報発信に努めます。

4. 図書館が支援するサービス

①子どもの読書活動の推進

幼児期から読書に親しんだり、絵本を介して子どもと家族が心触れ合える時間を持てるよう、三豊市子ども読書活動推進計画では、ブックスタート事業の推進を努力目標に掲げています。本計画においても、絵本の配布率を向上させるため、積極的に取り組んでいきます。

また、小学校低学年の子どもたちを対象としたセカンドブック事業についても調査・研究し、導入について検討します。

②読み聞かせボランティア団体との連携

図書館を運営するうえでは、市民が持つ様々な能力を活用することが重要です。読み聞かせボランティア団体との連携は、市民ニーズの把握や図書館事業の継続に欠かせないものです。

特に、市内の図書館で定期的に行われている「おはなし会」は、子どもたちが本と触れ合う出会いの場であり、そこでの経験は子どもの読書推進に役立っています。

今後も読み聞かせボランティア団体がさらに活躍できるように活動の場を提供するとともに、毎年研修会を開催し、ボランティアの育成・支援を行っていきます。

③図書館サポーターの育成

ボランティアの育成・支援とともに重要となってくるのが、市民サポーターの育成です。図書館が好きで、積極的に図書館運営に関わって活動する人を増やすことで、市民の求める図書館サービスの充実が図られ、市民の力を生涯学習の推進、地域の活性化に生かすことができると考えます。

④学校・その他施設・社会教育関係団体等との連携

子どもたちの学力を向上し、社会生活を送るうえで必要な他人を思いやる心、コミュニケーション能力、創造力等をはぐくむためには、読書活動の推進が重要となってきます。そのためには、学校等と連携して継続的に読書活動を支援していくことが大切です。

特に、子どもたちの生活の一部となっている学校図書館の利用を促進することは、生涯にわたる読書活動につながるものであり、市立図書館と学校図書館の連携は、今後の生涯学習推進において非常に重要です。

学校図書館の本を選定する際に市立図書館の司書がアドバイスをしたり、市立図書館の蔵書を貸し出したりするだけでなく、お互いが意見交換をする場を持つなどして連携を強化し、子どもの読書活動の推進と充実を図ります。

また、今後は学校現場の状況をよく把握したうえで、市立図書館と学校図書館をネットワークで結んで情報を共有する必要性についても検討していきます。

公民館活動や子育て支援事業、各種社会教育関係団体との連携も強化します。市民が生涯にわたって学び、豊かな人生を実現するためには、これまで別々に事業を行っていた図書館、公民館、子育て支援センター等が一体となって活動することが大切です。

また、市内の高等学校、高等専門学校や企業との連携も検討します。図書館の持つ豊富な資料を生かし、学生や民間の力を借りながら子どもの教育支援や地域活動支援を行うことで、図書館を中心とした活力ある地域コミュニティづくりが図られると考えます。

⑤魅力あるイベントづくり

来館者の増加を目指し、現在も各図書館で様々なイベントを実施していますが、今後はそれに加え、海や山に囲まれ自然豊かで歴史や文化にも恵まれた地域の特性を生かし、図書館の持つ郷土資料を活用した、地域に密着したイベントづくりにも取り組みます。

また、館独自のイベントのほかに、他の図書館、学校、企業、各種団体等と連携して、全市的な図書館イベントの実施も検討します。

5. 再編計画の検討

再編基本構想では、当面7館を維持するとしていますが、今後の社会情勢の変化や市の財政状況によって、館数を減らした場合の図書館運営についても検討しました。

今後は、市民の意見を十分に聞くため定期的にワークショップ等を開催しながら、10年をかけて利用率の低い図書館の規模縮小や閉館、民間のノウハウを活用した管理運営体制等についてさらに検討を重ね、市民の教育と文化の発展に寄与できる図書館を目指します。

第4章 計画の推進体制

1. 重点目標の設定

利用者によりよいサービスを効率的に提供するため、下記のとおり重点目標を設定し、取り組めます。

中央図書館機能の整備

特色ある図書館づくり

開館日・開館時間の拡大

市民ニーズの把握

図書館サポーターの育成

学校・その他施設・社会教育関係団体等との連携

重点目標の取り組み

各重点目標については、平成34年度から実施してまいります。定期的に行うワークショップやアンケートにより市民ニーズを把握し、見直しや検討を重ね、よりよいサービスの提供に努めます。

重点目標	H30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
中央図書館機能の整備	<p>検討 試行 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H32年度までに中央図書館機能を持たせた図書館運営について検討する ・H32年度からH34年度で試行し、見直しや再検討を行ったうえで実施する 									
特色ある図書館づくり	<p>検討 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある図書館づくりに向け内容を検討する 									
開館日・開館時間の拡大	<p>検討 試行 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館日・開館時間の拡大に向け、職員の配置等について検討する ・夏休み中に開館時間の延長を実施する ・H32年度からH34年度で試行し、見直しや再検討を行ったうえで実施する <p>※H31年度から一部試行</p>									
市民ニーズの把握	<p>実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度からワークショップを開催し、回数を増やしていく ・ワークショップ以外に市民アンケートを実施し、市民のニーズを把握する <p>※ワークショップ目標回数 H30年度 1回 ⇒ H34年度 3回</p>									
図書館サポーターの育成	<p>検討 試行 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H32年度までに図書館サポーターの役割や必要性について検討する ・養成講座等を開催して、図書館サポーターを育成する <p>※サポーター目標人数 H30年度 0人 ⇒ H34年度 10人</p>									
学校、その他施設・社会教育関係団体等との連携	<p>検討 試行 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館や他団体との意見交換の場を設け、情報を共有したり連携を図る ・学校図書館とのシステム等のネットワーク化に向けて、学校と協議を行う 									

2. 取り組みの評価

市教育委員会において施策・事業の進捗状況を把握し、行政内関連部署と連携して必要な改善を図っていきます。また、利用者アンケートやワークショップを開催してニーズの把握に努めるほか、進捗状況を市民や社会教育委員会などの関係機関に公表します。毎年開催される図書館協議会で各年度の成果や目標達成度を点検し、次年度以降の取り組みに反映させます。

資料

三豊市図書館協議会 委員名簿

任期 平成29年4月1日～平成31年3月31日

氏 名	備 考
詫間 政司	三豊市社会教育委員会会長
大平 敏弘	三豊市議会議員総務教育常任委員長 (平成29年4月1日～平成29年11月20日)
丸戸 研二	三豊市議会議員総務教育常任委員長 (平成29年11月24日～平成30年2月11日)
瀧本 文子	三豊市議会議員教育民生常任委員長 (平成30年2月22日～平成31年3月31日)
山本 珠美	学識経験者 (香川大学生涯学習教育研究センター)
神原 道央	三豊市公民館館長
森田 浩文	三豊市立小中学校校長会会長
香川 浩一郎	三豊市立小中学校校長会副会長
白川 啓子	三豊市幼稚園長会会長
豊島 輝美	三豊保育研究会会長
田井 公子	三豊市内図書館ボランティア代表
田尾 弘子	利用者代表 (三豊市母子愛育会会長)

計画策定の経過

年月日	会議等	協議内容
平成29年4月	各図書館職員に聞き取り調査	
平成29年5月18日	第1回図書館協議会	計画策定の意図について 作成までのスケジュールについて 現状説明
平成29年7月7日	第2回図書館協議会	計画内容の検討について ワークショップ内容の検討について
平成29年8月6日	図書館ワークショップ	図書館について考えるワークショップ 開催
平成29年8月20日	お話し会研修講座	親子参加者、図書館ボランティア参加 者へのアンケート実施
平成29年10月5日	第3回図書館協議会	計画案の検討について
平成29年11月20日	第4回図書館協議会	計画修正案の検討について
平成29年11月21日	市教育委員会	計画案の報告
平成29年12月11日	総務教育常任委員会	計画案の報告
平成29年12月22日～ 平成30年1月22日	パブリックコメント実施	
平成30年2月14日	第5回図書館協議会	計画（案）の決定について
平成30年2月27日	市教育委員会	計画の決定
平成30年3月7日	教育民生常任委員会	報告

図書館の未来を話し合うワークショップ

目 的	7館がほぼ同じような機能を持ち、各々が独立して運営を行っている現状を見直し、各図書館に特色を持たせ、利用率を高めるため、ワークショップで市民や利用者から意見をいただき、今後の図書館運営に反映させる。
講 師	香川大学生涯学習教育研究センター 山本珠美准教授
日 時 場 所	平成29年8月6日(日) 10:00~12:00 豊中町図書館 音楽室
参加人数	愛育会 4名 ボランティア 14名 図書館利用者 (小学生) 7人 (中学生) 8人 (大人) 10人 学校図書館司書 8人 市立図書館司書 6人 香川大学ボランティア学生 2人
内 容	① 図書館内の設備や本の配置、展示の工夫などについて説明 ② 7班に分かれて「図書館の好きなところ」を話しながら自己紹介 ③ 「図書館でこんなことができたならもっと好きになる」「こうなったら面白いんじゃないか」をテーマに、班ごとに各自が1つの意見を1枚の付箋紙に記入 ④ みんなで意見交換しながら、出たアイデアを整理 ⑤ 各班ごとに出た意見を発表し、共有

ワークショップで出た意見

※一部抜粋

項 目	記述内容
館内サービス	<ul style="list-style-type: none">・ BGMを流してほしい・ 自動貸出機を置いてほしい・ 開館時間を延長してほしい・ 本を買える図書館があればいい・ 返却ポストを増やしてほしい、スーパーかコンビニで返却できたらいい・ 学校への貸出冊数を無制限にしてほしい・ 新刊図書やイベント情報を載せた便りを発行してほしい・ 郵便返却ができるようにしてほしい（宅配・回収サービス）・ イケメンの司書を置く・ 個人の書籍の効果的な活用方法を考える・ レファレンスサービスを充実させる・ 人と人が交流できる場所にしてほしい・ 男性利用者や子どもたちが読み聞かせを実施してはどうか・ 社会で話題のテーマを取り上げたコーナーを設置する・ 親子で来た時に親が安心できるスペースがあればいい（託児所等）

ワークショップの様子

参加者一人ひとりが、図書館
に対する思いを出し合いました



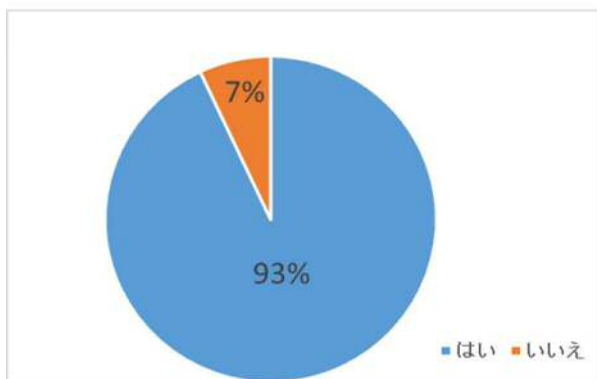
項 目	記述内容
設備・図書等の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいCDを置いてほしい ・図書館バッグの小さい袋がほしい ・親子で利用できる子ども図書館を作ってほしい ・借りられる本を増やしてほしい ・貴重な本、希少な本を収集して一般に触らせないでほしい ・専門的な本があればいい ・移動図書館を増やす ・ペットのいる家庭でも気軽に利用できる図書館があったらいい ・寝転がれる、寝転んで本が読めるスペースがほしい ・食事や飲食ができるスペースがあったらいい(カフェ) ・ベランダやバルコニーを作ってほしい ・自然と触れ合えるスペースがほしい ・話ができるスペースがほしい ・駐車場をもっと広くしてほしい ・防音の部屋がほしい ・複合的な施設に図書館が入ればいい ・気軽に利用できて、本を読む快適な空間がほしい ・天気の良い日はオープンテラスで本が読みたい ・ネット環境を整備してほしい ・図書館ホテルを作ってほしい
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスパーティーやハロウィンパーティーにコスプレをして図書の交流会を開いてほしい ・フリーマーケットを開いてほしい ・クイズ大会や囲碁・将棋大会をしてほしい ・大人でも参加できるイベントやワークショップをしてほしい

図書館に関するアンケート(8月20日おはなし講習会にて実施)

目 的 親子参加者、ボランティア団体、学校図書館司書等にアンケートを実施して現状を把握し、今後の図書館運営に反映させる
 日 時 平成29年8月20日(日) 10時～16時
 場 所 三野町社会福祉センター
 参加人数 午前 75人 午後 48人

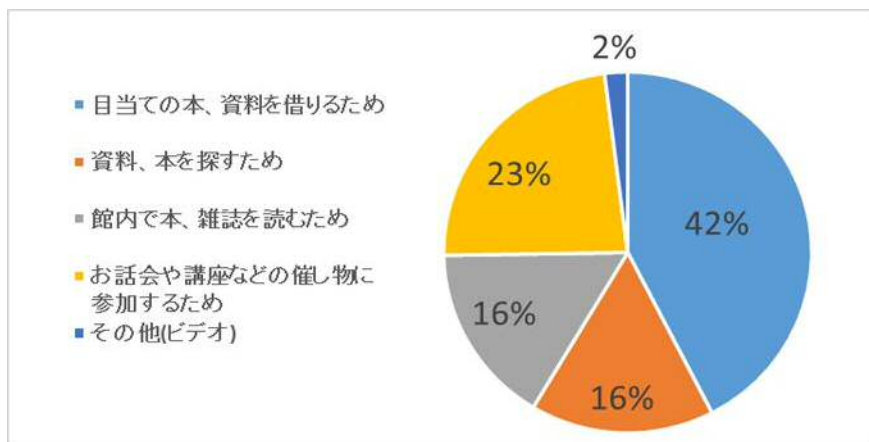
問1 市内の図書館を利用したことはありますか

はい	38人
いいえ	3人



問2 問1ではいとお答えした人にお伺いします(複数回答可)
図書館を利用する目的を教えてください

目当ての本、資料を借りるため	36人
資料、本を探すため	14人
館内で本、雑誌を読むため	14人
お話し会や講座などの催し物に参加するため	20人
その他(ビデオ)	2人



問3 問1でいいえとお答えした人にお伺いします（複数回答可）
図書館を利用しない理由を教えてください

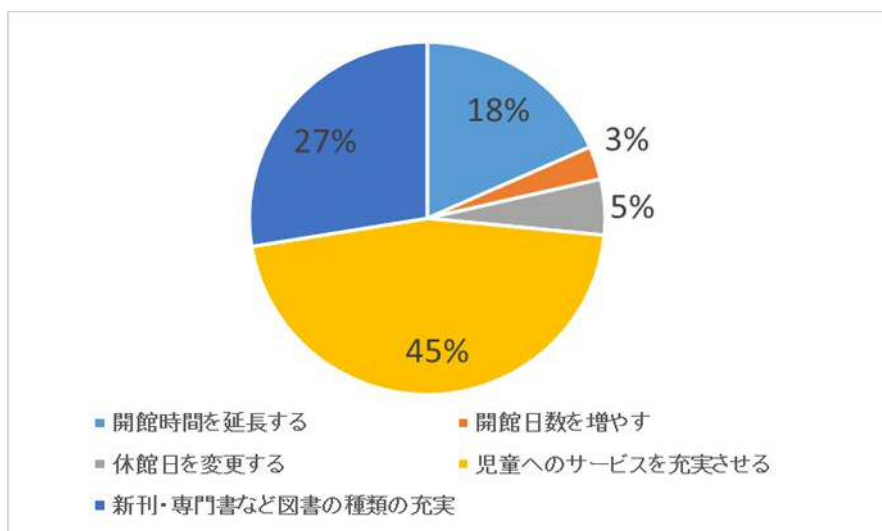
図書館は静かにしないといけないので苦手	1人
その他（市外のため）	2人

問4 どんな図書館があれば利用したいですか

- ・ 小さい子ども向けの本が充実している
- ・ 絵本が豊富にある（ちょっと高価な絵本など家で買えないもの）
- ・ CDが利用できる
- ・ 勉強中の人に迷惑がかからないスペースで、子どもに本の読み聞かせができる
- ・ お話会やイベントを定期的で開催してほしい
- ・ 子ども広場や遊びのスペースがほしい
- ・ 未就学児を連れていっても安心していただける
- ・ カフェを併設してほしい
- ・ 子どもが裸足で過ごせるスペースがほしい
- ・ 楽譜を置いてほしい
- ・ 近くにあること
- ・ 畳の部屋で自由にはいはいをしながら読める場所で子どもと1日いられるようなところがほしい
- ・ 飲食（主に飲み物）ができるコーナーがほしい

問5 図書館にどんなことを希望しますか（複数回答可）

開館時間を延長する	10人
開館日数を増やす	2人
休館日を変更する	3人
児童へのサービスを充実させる	25人
新刊・専門書など図書の種類を充実させる	15人



問6 これからの図書館についてご意見がありましたらお聞かせください

- ・ 小さな子が自分で借りて返すなど、自発的に行動できる図書館にしてほしい
- ・ 特に夏休みなどに通いやすいイベント等があればうれしい
- ・ 明るく親しみやすい図書館にしてほしい
- ・ サッカーの本を増やしてほしい

ボランティア団体、図書館等の意見

問1 現在の図書館において改善してほしいところがありますか

新しい本を買ってほしい
ベビーベッドやサークル等、小さい子どもを寝かせたり走り回らせられるスペースがほしい
貸出冊数を増やしてほしい
休館日をずらしてほしい
いろんな施設との連携をもう少ししてほしい
小さい子どもたちが騒いでも迷惑にならないようなコーナーがあればいいと思う
大型絵本の貸し出しができるところとできないところがあるので統一してほしい
イベントやお話を充実させてほしい
かばんを持ち込みたい
現状のまま図書館を減らさないでほしい
バリアフリーでないところが少し気になります

問2 より多くの人に利用してもらうために、図書館はどんなことをするべきだと思いますか

【蔵書について】

蔵書を充実させてほしい（専門書や貴重本も含めて）
新しい本を入れてほしい（話題になっている本など）
面白い本があることをアピールする
必要なこともあるので、昔からある本は廃棄せず大事に置いてほしい
保管場所がないという理由で良い本を処分しなくてもいいように三豊市全体で考えてほしい
ビデオ、CDを充実させてほしい
幅広い分野の本を入れてほしい

【開館時間について】

9時開館にしてほしい
夏休み期間は早く開館してほしい
過ごしやすい季節（夏や秋）に遅くまで開館してほしい
1週間のうち2回くらい8時くらいまで時間延長してほしい
18時までという点はありがたい
開館時間を延長してほしい

【機能・サービスについて】

市外の公共図書館との相互貸借等を充実させてほしい
この様なボランティア講座をどんどん計画してほしい

【施設・設備について】

現状より減らさないでほしい
書架を木製にしてほしい
DVDが見える個室やブースがほしい
コンビニみたいに、自分でお金を入れたらコピーが自由にできるようにしてほしい
お話会の打ち合わせをする部屋がほしい
飲食スペースを作してほしい

問3 今後の図書館運営に関するアイデアやご意見があればお聞かせください

地域住民と行政が意見を持ち寄り、三豊市らしさを持った図書館運営を直営でしてほしい

三豊市図書館基本計画

■発行 行：平成30年3月

■編集・発行者：三豊市教育委員会事務局

〒767-8585 香川県三豊市高瀬町下勝間 2373-1

TEL 0875-73-3135（生涯学習課）

FAX 0875-73-3140（生涯学習課）

ホームページ <http://www.city.mitoyo.lg.jp>